

「持続可能な地域づくり」ワーキンググループ 第6回会議 議事要旨

10月20日(水)15時~17時開催

於: CANPANセンター(海洋船舶ビル8階) セミナールームにて

主なアジェンダ

【モデル・シナリオに盛り込むべき課題の確認】

各グループによる「協働によってとり組むべき課題」「協働プロジェクト案」に対する意見交換

前回の各グループからの提案のポイント、共通点

- ・地域において円卓会議の担い手をつくる体制をつくる
- ・地域円卓ができた時にテーマ型でいくのか、万能型でいくのか、についての議論が必要
 テーマを先に決める
 テーマ決めず、場をまず作る
 テーマがあり、既存の組織がある。それを円卓にできるのではないか。
- ・特定の制度(自治体の呼びかけなど)そのもののマルチステークホルダー参画を進める

明日(部会・運営委員合同会議)の骨子発表に向けて

- ・来年度以降の協働プロジェクトとして、地域円卓をつくるように、各セクターで促すことを盛り込む、ということでもいいか。

(意見交換の要旨)

- ・趣意書に書かれたことを実現するひとつのツールとして地域円卓会議は必要。
- ・何のために集まるのか、明示できなければ集まらないのではないか。
- ・テーマは地域発であるべき
- ・地域の事情によってテーマが先か会議体为先かは異なる。両論併記で始めることはできる。
- ・円卓会議をつくるのが目的ではない。何かをするために円卓会議があるはず。
- ・既に活動しているものが相当数ある。それを広げて円卓会議としてマルチステークホルダー参画していくのが一番いい
- ・県域、市町村、県を越えた地域のまとまり、広域ブロック等、様々なエリア設定がある。
 取り組み地域に重複があってもいい。
- ・地域円卓会議を支えるメニューと、一緒に携えて実践していくメニューは別で考えなければ。
- ・地域にとっての優先課題、を主題・出発点としなければならない。
- ・新しい公共支援事業に対して、地域WGとしてどう関わるか。積極的に活用することの是非。
- ・何が協働でできるのか、という議論が先にあって、そこにどんな政策、予算必要なのかという順番が筋。
- ・共通でもっていなければならない事務局機能どうするか、は議論必要。
- ・最初はボランティア精神も必要、というか最も大切。お金がない方がいいものになることもある。
- ・組織を立ち上げるのは大変なので、週末ワークキャンプやワールドカフェ等、イベントベースでの「お試し円卓」も、簡易版としてあっていい。
- ・既存の取り組み、異業種交流会等をマルチステークホルダー参画にできないか。
- ・地域によって始め方は色々ある。まず集まりましょう、と始めるところも、テーマ設定あってから始めるところがあってもいい。柔軟にできるようにしたい。

- ・前提として、自治体に頼らないように。各グループで持ち出しの覚悟がいる。
- ・円卓会議の持ち方のガイドラインなどは必要になるかもしれない。進め方のハンドブックも。

上記の議論を経て、別紙の資料(「持続可能な地域づくり」ワーキング・グループの「活動状況」および「行動計画の策定に向けた検討状況」)を10月21日の社会的責任円卓会議 戦略部会・運営委員会合同会議に提出した。